

2. 授業科目と授業概要（1年生）

※3年間で履修する全ての授業科目の授業概要を示します。

	履修科目	講義などの内容	時期
基礎分野 15単位	生物学入門	種の維持ために“食”と“性”の間を循環する生物が、発生から進化を遂げていく中で、生体に有利な解剖学的特徴と生理学的特性をどのように取り入れてヒトになったかを学習する。その理解により看護学習に必要とされる生物学的知識を習得する。	1年次 前期
	論理的思考演習	科学的根拠に基づいた論理的思考力を育成し、また、論理的な表現能力を身に付け、看護実践領域で活用できる能力を養う。	1年次 後期
	心理学	対象とする人間の心や行動を理解するために必要な理論を学ぶ。	1年次 前期
	社会学	社会現象の実態や、現象の起こる原因に関するメカニズム（因果関係）等から個人、行為や行動、家族やコミュニティなどの集団、組織、相互作用等を社会の中で多角的に、時に批判的に見る社会的な見方、とらえ方、社会に関する知識を身につける。人々の暮らしの中から生きるための地域の特徴や生活の在り方、考え方について理解を深め、地域で暮らす社会の一員としての位置づけについて洞察し看護者としての役割について理解を深める。	1年次 後期
	国語リテラシー	文部科学省はこれからの時代に求められる国語力として、国語力は「知的活動」「感性・情緒」「コミュニケーション能力」などの基盤であり個人の自己形成にかかわる重要な能力である指針を示している。これからの社会人（医療人・看護者）としての基本として重要な理解する力と表現する力、物事を考える力について学ぶ。	1年次 前期
	生活と文化	高知県の歴史・文化、自然や生活を知り、人々の暮らしの中から生きるための地域の特徴や生活のあり方、考え方について理解する。地域（高知県）で暮らす人々の健康、病気、医療などのとらえ方や感じ方は、個人を取り巻く社会や文化からどのような影響を受けるのか、その多様性に着目し健康維持の視点から洞察し、看護者としての役割について理解を深める。	1年次 前期
	英語入門	聞く、話す、書くの3技能について、日常生活や看護の場面に役立つ英語表現を学習する。英語の実用的な活用能力を養う	1年次 前期
	看護英語	看護・医療従事者に求められる基本的な医学英語知識の習得を目指し、英語を理解するために必要な読解力・聴解力を身につける。	3年次 前期
	倫理学	看護倫理とは何かを理解し、その重要性を学ぶ。保健医療福祉現場で看護師が直面する倫理的課題について考察し、看護師としてどのような倫理が求められているかを理解し、基本的姿勢と態度を養う。	1年次 前期
	運動と健康	個人や社会における生活習慣等に対する健康や運動の持つ役割に注目し、それらの現象や問題について多角的な視点で生涯にわたり豊かな生活を営むための健康や運動、スポーツの科学的・文化的認識や実践することの重要性を学ぶ。適切な運動実践と自己のライフステージや心身の状態に応じた身体活動や健康推進活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを主体的に形成する能力を養う	1年次 前期
	人間関係とコミュニケーション（カウンセリング）	人間関係・コミュニケーション論の理論を基に心と行動に柔軟性が伴うよう必要とされるコミュニケーションを考え、理解を深める。また、現代社会における自己と他者の関係性を捉えものの見方を再考するとともにカウンセリングの理論と実践の基礎的能力を養う。	1年次 後期
	教育学	人間の成長と教育の意義、教育の目的など教育学の理念・基本概念について学び、家庭教育、健康教育・生活指導などの実践的能力を養う。	1年次 前期
情報科学・演習	効果的なパーソナルコンピューター（パソコン）の活用を目指して、情報科学の基礎知識とその応用を学び、日常使われているソフトウェアやインターネットの正しい使用方法について学ぶ。各自がパソコンを使って、基礎的なコンピュータリテラシーを習得し、看護現場において必要な情報通信技術に関する知識と技能を身につける。	1年次 前期	

	履修科目	講義などの内容	時期
基礎分野 1.5単位	医療と情報科学	診療情報管理を行う上で必要な基礎的な知識の習得と実践的な能力を養う。IT化の進む社会において、情報システムは欠くことのできない存在である。医療においても無数の情報システムが存在し、それらを結び大規模な情報システムも存在する。これらの基本的な知識を取得する。また、電子カルテシステムを通して情報技術と社会の結びつきを学ぶ。本講義は授業中や課題にICTツールを多用する。	2年次前期
	社会人基礎力	社会人基礎力は、社会に出てどのような仕事についても求められる必要最小限度の能力である。「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の基盤となる学びを、リフレクションの要素を取り入れながら、体験的に学び、「自ら気づき」「自ら育つ」力を養い社会に通用する組織人、専門職業人になるための基礎的な能力を育む。	1年次前期
専門基礎分野 (2.2単位)	生化学	生体がどのような化合物で成り立っているか、またそれらの化合物がどのようにつくられ壊されて生体の恒常性が保たれているのかを理解する。 1. 生体を構成する物質：1) 生化学の基礎 2) 糖質 3) 脂質 4) たんぱく質 5) 核酸・水と無機質 6) ホルモンと生理活性物質、2. 生体内の物質代謝：1) 代謝のあらましと酵素 2) ビタミンと補酵素 3) 糖質代謝 4) 脂質代謝 5) たんぱく質代謝 6) 核酸代謝、3. 遺伝子情報とその発現：1) 遺伝子情報 2) 先天性代謝異常	1年次前期
	I. 消化器 個体維持のための物質産生とエネルギー産生を担う消化・吸収・排泄システム	経口摂取から始まり、最終的にはアミノ酸など身体構成の部品を作ってゆく上部消化管の消化吸収システムを学習し、各種残渣の排泄経路となる下部消化管についても学習する。消化システムは大きく胃から肛門までの管腔臓器系と肝臓などの実質臓器系に分かれる。各臓器系について解剖から生理について学習し、主要な疾患の病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。	1年次前期
	II. 呼吸・循環・脈管系 1 酸素を取り入れるシステムと細胞代謝に必要な各種物質を循環させるシステム 1	この領域では酸素と二酸化炭素を交換する呼吸システムと、細胞の活動に必要な各種物質を循環させる心臓収縮から始まり、末梢まで循環させる循環器系を理解する。この領域では呼吸と循環を一体化させたシステムとしてとらえて解剖・生理を理解・学習するとともに、肺と心臓の主要疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。この領域では心臓から血液を循環させる脈管系の解剖を理解し、部位特異性の主要な疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。また脈管を循環することにより、生体の細胞活動を担う血液やリンパ管に関連する主要な疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。	1年次前期
	II. 呼吸・循環・脈管系 2 酸素を取り入れるシステムと細胞代謝に必要な各種物質を循環させるシステム 2		1年次前期
	III. 内分泌・代謝 体の恒常性 (ホメオスタシス) を担うシステム 1	体の恒常性は内分泌系、腎臓の排泄・再吸収機能、肺機能など多臓器の働きにより電解質濃度や酸塩基平衡等を保つことで、体内外の環境の変化に対応している。この分野では、恒常性を保つ機序を解剖生理学的に理解し、関連する内分泌臓器の主要疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。また細胞のエネルギー源である血糖のコントロールの生化学的機序を理解し、それに付随する疾患の病態生理・症状・検査・治療について学習する。	1年次前期
	IV. 腎・泌尿器 体の恒常性 (ホメオスタシス) を担うシステム 2	体の恒常性をなうもう一つの臓器である腎臓の解剖、生理機能について学習する。特に、酸塩基平衡や電解質について他の臓器・器官との相互関連について学ぶ。そのほか血圧維持や造血について間接的に関与する腎臓の多面的機能について理解し、その主要疾患について病態生理・症状・治療を学ぶ。	1年次後期
	V. 感覚器・脳神経 情報取得、統合・判断、目的行動のシステム 1	ヒトは動く存在(homo mobilitus)であり、各臓器経由で種々の情報を取得して大脳に集め、大脳はそれを統合・判断して神経系を通じて運動器に伝達し目的行動を行う。各種情報を集める器官と統合・判断して運動器に伝えるシステムの解剖・生理を理解し、情報の流れの中での主要疾患について病態生理・症状・治療について学習する。	1年次後期

	履修科目	講義などの内容	時期
専門基礎分野 (22単位)	Ⅶ. 皮膚・免疫系 体を守るシステム・ 女性生殖器	ヒトは生命を維持し種をつないでいく中で、種々の環境要因の侵襲から体をから守るシステムを作ってきた。物理的侵襲については皮膚や粘膜が大きな役割を果たし、体内では主として白血球及びその生産物質が防衛的に働いている。これら物理的、化学的な防御システムの解剖・生理を理解し、この分野の主要疾患について病態生理・症状・治療について学ぶ。	1 年次 後期
	医学概論	医学とは何か、生とは何か、医学の目指すものなど、その歴史、現状と課題について学ぶ。医療者としてどうあるべきかを考える。医学的な治療とは何か、診断はどのような過程を経て行われるのかなど、診断・治療に関する医学的知識を深める。 病気の特有な症状や経過に関する基礎的知識を身に付け、医療における各治療法（食事療法、薬物療法、放射線療法、手術療法、理学療法など）概要、特徴、適応などを学び、対象の治療過程の理解に活用し、今後の看護実践につなげる。	1 年次 前期
	病理学	人体組織における病的状態の原因・発生機序を理解する。	1 年次 前期
	微生物学	微生物についての基礎知識、感染と発病、感染の予防と治療について学び、生態に及ぼす影響とその対応方法を学ぶ	1 年次 前期
	臨床栄養学	栄養に関する基礎的知識を学び、病態や栄養状態に基づいた適切な栄養マネジメントについて理解を深め、栄養療法の重要性を理解する。	1 年次 後期
	薬理学	薬物の特性を知り、薬物作用に関する基礎的事項を理解し、薬物の作用と病態との関連性、薬物相互作用や副作用を学ぶ。また、薬物の管理について理解する。	1 年次 前期
	リハビリテーション概 論・演習	リハビリテーションの概念を理解し、リハビリテーション医療が必要となる人のセルフケア（自立・自律）支援に必要な援助方法を学ぶ。また、リハビリテーション医療にかかわる職種の役割とチームアプローチについて学ぶ。リハビリテーションにかかわる医療チームの中での看護師の役割を理解しリハビリテーション看護の独自性と特徴を身につける。	2 年次 前期
	臨床推論	患者が語る症状や体が表す徴候をもとに患者の状態を正しくアセスメントする能力を養い、臨床に適応できるように知識と技術の統合を図り、看護の実践者として患者の看護を総合的に展開できるようにするために必要な基礎的能力を身につける。	3 年次 前期
	医療と経済	少子高齢化の進展や人口構造の変化に対応するために、わが国の医療制度を含む社会保障制度の現状と改革の内容などを理解し、医療と経済との関係について必要な知識を学ぶとともに医療における経済的視点を養う。	1 年次 後期
	医療と安全	医療安全に関する定義や理念並びに主な概念と歴史について学ぶ。また、医療や看護におけるリスクや有害事象の実態と予防方法を学ぶと共に、国や組織における医療安全管理体制と安全文化形成に向けた取り組みについて学ぶ	1 年次 後期
	健康生活と安全	人々は災害や感染症発生等など日常生活での危機的な状況は避けることができない。危機予防から発生、発生後と継続して対象者の安全確認や日常生活での注意点等を理解し、健康管理のできる看護者としての役割を学び生活支援のできる知識、方法を身につける。	3 年次 後期
	社会福祉総論	保健医療・福祉を取り巻く環境や政策的動向、現代社会における課題を踏まえうえで保健・医療・福祉それぞれの理念や仕組みなどについて基礎的知識を学ぶ。	3 年次 後期
	公衆衛生学	人々の生活習慣や環境の変化とわが国における健康・疾病の現状を関連付けて理解するとともに、健康の保持・増進から疾病予防、QOL の向上に至るまでの包括的保健医療の概要などについて学ぶ。	3 年次 後期
関係法規 (社会保障制度)	看護職として基盤となる医療関係法規や社会保障の柱である年金保険、医療保険、介護保険などの社会保険を理解し、医療専門職としての職責を正しく遂行するために法律の基礎的知識や社会保障制度などについて学ぶ。	3 年次 後期	

	履修科目	講義などの内容	時期
専門分野 (44単位)	看護学概論Ⅰ	看護の全体像を理解するための基本概念や社会における看護の機能と役割について理解し、人々の健康・生活へのアプローチを考えるための基礎的な知識を学ぶ。	1年次 前期
	看護学概論Ⅱ	看護実践のための提供システム、看護の多様な活動の場について理解するとともに、看護実践の基礎となる代表的な看護理論について基礎的な知識を学ぶ。	1年次 後期
	ヘルスアセスメント	人が本来持っている生活のリズムを維持できるように身体的、心理的、社会的な視点からアセスメントする力を身につける。看護実践に活かすフィジカルアセスメントの知識と技術、検査の読み方等を身につける。	1年次 後期
	家族看護学	看護における家族の役割は大きく、家族の援助なしに患者・クライアントのケアは成立しない。看護専門職として、家族とその支援手法及び家族関係性を把握するなかでキーパーソンの果たす役割を認識することは看護活動を実践する上で重要であることを学ぶ。	1年次 後期
	看護過程演習	より良い看護を実践するための看護過程の展開とは何か、その意味と必要性が理解できる。事例を用いながら看護過程の各段階において必要な判断力と表現力を養う。	1年次 後期
	看護研究Ⅰ	普段から問題意識をもつ必要性を理解し、看護研究についての基礎的な知識を学ぶ。そして、必要な文献や情報を検索し、関心のあるテーマに関する研究論文を読むことを通して、看護における研究の役割・意義について考える。	1年次 後期
	基礎看護学方法論Ⅰ	看護を実践する基本となる看護技術とは何か、その概念を理解するとともに、看護技術を身につけるための学習方法を学ぶ。また、人の健康状態を多角的に捉えることを目指して、バイタルサイン測定・コミュニケーションの技術を身につける。	1年次 前期
	基礎看護学方法論Ⅱ	看護は人間の生命に関わる仕事であることから、患者の安全と安楽を考え援助することが基本となる。安全・安楽の基本となる知識を理解して必要な援助技術を身につける。	1年次 前期
	基礎看護学方法論Ⅲ	清潔は人間の基本的な欲求の充足に必要な日常生活援助であることを理解し、対象への配慮を考えながら具体的な援助技術を身につける。また感染予防の基礎知識を身につけ、患者の安全を考え実際の援助技術を身につける。	1年次 前期
	基礎看護学方法論Ⅳ	健康な生活における食事・排泄の意義を学ぶ。また、食事摂取・排泄機能の障害が対象に及ぼす影響を理解し対象に適した援助方法を学ぶ。	1年次 後期
	基礎看護学方法論Ⅴ	診療の補助に伴う援助の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される治療、検査などに必要な基本的知識を理解し、援助技術の方法を身につける。	1年次 後期
	地域・在宅看護総論	看護の対象は療養者を含めた地域で生活する人々であると捉え、地域・在宅看護活動で特徴的な集団や地域社会の理解を深めるための基礎的能力を身につける。ヘルスプロモーションの理念に基づき、健康で暮らしやすい地域や暮らしづくりについて学び、暮らしが健康に与える影響について学ぶ	1年次 前期
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	地域・在宅看護の歴史的変遷を概観し、地域・在宅看護の定義や理念、地域・在宅看護活動の目的や基盤となる関連法規や制度について学習する。地域・在宅看護の対象者とその家族が住み慣れた地域で生活するための地域包括ケアシステムと看護活動、地域社会での活動方法や看護の機能と役割について学習する。また、在宅移行支援における多職種協働と看護の役割について学ぶ。	1年次 後期
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	地域・在宅療養を支えるコミュニケーション技術、看護を展開するために必要な信頼関係形成のための技術、日常生活援助技術、医療管理技術など在宅において特有な看護技術に関する知識や方法を学ぶ。	2年次 前期
	地域・在宅看護援助論Ⅲ	地域・在宅で看護を必要としている療養者とその家族に対して在宅生活を継続するための看護展開のポイントと展開方法について学ぶ。また、在宅で看護を展開するために必要な基本的マナーについて学ぶ。	2年次 前期
	地域・在宅看護援助論Ⅳ(演習)	疾患の予防段階から終末期まで、地域・在宅看護の介入時期別の看護の実際について学ぶ。在宅生活を継続するための安全・安心・安楽な暮らしの在り方を考える。	2年次 後期

	履修科目	講義などの内容	時期
専門分野 (44単位)	地域・在宅看護援助論Ⅴ(演習)	地域・在宅で看護を必要としている療養者および家族の潜在能力を最大限に活用し、在宅生活を継続するための看護援助方法を学ぶ。事例を通して安全・安心・安楽な暮らしの在り方を考える。	2年次後期
	成人看護学概論	成人期にある対象者の特徴を発達段階に応じて、身体、心理、社会的側面で捉え、成人が抱える健康問題を広く理解する。また、成人期にある対象者やその家族に応じた看護を実践するための基盤となる主要な概念や理論を学び、成人期の対処者に応じた看護ケアの基礎的な方法を学ぶ。	1年次後期
	成人保健	成人期の対象者を取り巻く社会の動向やライフサイクルにおける成人期の健康課題について理解し、現在・将来の成人看護の方向性について学ぶ。	1年次後期
	成人看護援助論Ⅰ	急性期、特に救急等クリティカルな状態にある対象者の身体的変化や心理的特徴を踏まえた効果的な看護援助の在り方を学ぶ。(各論・事例展開を中心に実施する。) 周手術期・呼吸・循環器疾患患者の看護を主とする。	2年次前期
	成人看護援助論Ⅱ	急性期、特に救急等クリティカルな状態にある対象者の身体的変化や心理的特徴を踏まえた効果的な看護援助の在り方を学ぶ。(各論・事例展開を中心に実施する。) 脳血管疾患・消化器疾患患者の看護を主とする。	2年次前期
	成人看護援助論Ⅲ	回復過程にある患者とその家族の特徴を理解し、再発予防を含めたりスク管理を行ないながら、活動を促進する看護の役割と方法を学ぶ。また、慢性疾患など生涯にわたり症状・生活のコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を知り、その状況に応じた看護の役割と援助方法を学ぶ。 代謝・腎・泌尿器・自己免疫疾患患者の看護を主とする。	2年次前期
	成人看護援助論Ⅳ	人生の最終段階にある対象が尊厳を持って個の特性に応じた人生を送ることができるための看護実践を学ぶ。Adolescent and Young Adult(AYA)、トランジションなどの健康課題について成人期からの連続性と今後の人生・生活への影響を踏まえて包括的にアセスメントし支援する方法を学ぶ。	2年次前期
	老年看護概論	老年期の特徴、加齢のプロセスと健康問題などについて学び、「老いを生きる」をささえることとは何かについて理解し、高齢期における看護の役割について学習する。	1年次後期
	老年保健	高齢者を取り巻く社会の動向やライフサイクルにおける成長・発達の特徴を知り、老年期の加齢に伴う変化について理解を深める。さらに保健医療福祉制度について理解を深める。	2年次前期
	老年看護援助論Ⅰ	①加齢と健康の関係や高齢者の健康段階に応じた看護の在り方を考え高齢者の日常生活の看護援助を学ぶ。また高齢者及び家族のセルフケア能力をアセスメントし、その人らしさを生かし、持てる力を最大限に発揮できる支援方法を理解できる。 ②認知症の高齢者の特性や看護について理解できる。	2年次前期
	老年看護援助論Ⅱ	超高齢者社会において、最後までその人らしく生きることを支援するために、必要な知識・技術を学び、多職種チームの一員として看護職が果たすべき役割や基本的態度について考える。	2年次前期
	小児看護学概論	子どもが成長発達過程にあることを理解する上で基盤となる概念や理論を理解し、さまざまな健康レベルの子どもと家族の看護について学ぶ。	1年次後期
	小児保健	子どもを取り巻く社会の動向やライフサイクルにおける小児期の健康課題について理解し、現在・将来の小児看護の方向性について学ぶ。	2年次前期
	小児看護援助論Ⅰ	子ども特有の疾患の病態・症状・診断・治療について学ぶ。	2年次前期
小児看護援助論Ⅱ	病気・障害を持つ子どもとその家族に対応したQOL向上への看護実践について学ぶ。	2年次前期	

	履修科目	講義などの内容	時期
専門分野 (44単位)	母性看護学概論	母性看護を実践するための基盤となる、母性看護の特徴と概念について理解し女性を取り巻く社会の現状やライフステージ各期の健康と看護について学ぶ。	1年次後期
	母性保健	女性生殖器の構造、女性の生殖機能、受精と胎児の発生、成長と老化、女性生殖器の症状・徴候と病態生理、女性生殖器の診断、検査と治療、処置、女性生殖器疾患の理解、妊娠・分娩・産褥に伴う生理的变化及び正常な経過、新生児の理解等、女性の特徴とライフステージでの女性固有の特徴を理解する。特に周産期において母子及び家族の健康問題を理解し必要な基本的看護援助について学ぶ。(医師と看護師での分担内容)	2年次前期
	母性看護援助論 I	周産期の特徴と健康問題を理解し個別看護について学ぶ。特に妊娠・分娩・新生児・産褥の正常経過の理解と異常時等の看護援助について学ぶ。また、これから親となるための育児技術と家族関係について学ぶ。	2年次前期
	母性看護援助論 II	妊娠・分娩・産褥各期及び新生児における対象の特徴を理解し、適切な看護ができ基礎能力を養う。また対象に必要な保健指導を学ぶ。	2年次後期
	精神看護学概論	精神障がい者の理解とともに、精神保健医療福祉に関する法律・制度の歴史的変遷を体系的に学習し、精神疾患を抱えながら生活している人の人権や権利擁護について学び、精神科看護実践の基礎となる考え方や態度を養う。	1年次後期
	精神保健	精神看護学の観点から、心の健康、健康問題、発達、障がいについて広く学ぶ。個人の心と精神の機能、生活の場である家庭や職場などの集団における心の問題をとらえ、個々がストレスに適切に対処し、危機を乗り越え成長していくためには何が必要か、どのような支援が必要なのかを学ぶ。	2年次前期
	精神看護援助論 I	精神機能(思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶・認知など)の障害である、さまざまな精神症状および状態像、精神疾患の分類・診断と検査法、それに基づくさまざまな精神障害を学ぶ。また、精神の健康上の問題に直面している対象とその家族への援助技術、対応方法について学ぶ。	2年次前期
	精神看護援助論 II	精神の健康上の問題に直面している対象とその家族が心の健康を保ち、健やかに生活を送られるように看護できる技術や対応方法について学ぶ。そして、自分自身や身近な人を大切に思うこと・身近な人と自分自身に関心を持ち、自らの心の健康が保てる力を養う。	2年次前期
	看護研究 II	講義や実習を通して関心を持った看護現象に焦点を当て、その現象に関する既存の研究論文その他の文献を分析し、研究テーマを抽出し計画を立て研究を実践する。一連の研究プロセスを経験することで、科学的思考力や判断力などを養う。	3年次後期
	チーム医療	医療従事者としてチーム医療に必要な知識を習得し、医療従事者間の連携や協働について学ぶ。また、実習で体験したチーム医療の現状とチーム医療の知識を統合し、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップについて理解する。	3年次前期
	看護管理	医療チームの一員として組織的・効果的に看護を提供するための看護管理の基本概念を学び、より質の高い看護サービスを提供するための課題発見力・課題達成力・評価能力を習得する。	3年次後期
	災害看護・演習	災害が市民の健康や生活に及ぼす影響について学び、災害発生直後から始まる災害医療における看護職の役割、医療チームにおける多職種との連携について学ぶ。	3年次後期
	看護技術評価	卒業後早期に求められる臨床判断と適切な看護援助を、医療現場に近い状況で学習し、看護技術を総合的な評価を行う。	3年次後期
臨地実習 (23単位)	基礎看護学実習 I	患者を尊重した態度について考え、患者とのコミュニケーションを図る能力を養い、看護師としての基本的能力を身につける。	1年次後期
	基礎看護学実習 II	患者の生活環境と療養生活の実際を知り、対象に合った援助について考えることができる。また、安全・安楽の視点から人間の基本的な欲求の充足に必要な日常生活援助を、対象への配慮を考えながら実施することができる。	1年次後期
	基礎看護学実習 III	対象の基本的欲求が充足できよりよい健康状態(自立)に向けて、一連の看護過程を展開し、問題解決できる基礎的能力を養う。また、対象者や周りの人々と信頼関係を築き、看護者として倫理的な配慮ができる態度を養う。	2年次前期

	履修科目	講義などの内容	時期
臨地実習 (23単位)	地域・在宅看護論 実習Ⅰ	地域のフィールドワークを通して地域で暮らす人々と生活環境を知り、健康で暮らしやすい地域や暮らしづくりについて考える機会とする。暮らしが健康に与える影響について知り、健康課題を把握し、健康と暮らしを支える看護について考える土台づくりとする。 また、地域で生活する人々とその家族の健康や暮らしを支援するために生活の基盤である地域の特性や社会資源、ソーシャルサポートについて体験を通して学ぶ。	1 年次 前期
	地域・在宅看護論 実習Ⅱ	生活の場で行われている看護活動の実際や在宅療養者と家族を支えている保健医療福祉サービスの現状を知り、地域・在宅看護の役割・機能について理解を深める。看護の対象者の健康レベルに応じた介入時期と継続看護の意義や方法、関係機関・職種との連携、倫理的配慮について学び、実践する。	3 年次 前期
	成人看護学実習	働き盛りの成人期にある対象の健康を支える行政の活動などの社会の仕組みを知りその人自らが健康増進に向けて対処できるようなサポート体制を考え看護の役割を洞察する。 成人期の役割を持ちながら慢性の経過をたどり生涯にわたり病状・生活のコントロールを必要とする対象及び家族を理解し、看護を展開することができる。	2 年次 後期
	老年看護学実習	高齢者を総合的・多角的に理解し、認知症の高齢者に相応しい医療ケアについて考え、その人らしさを大切にしたい看護が展開できる基礎的能力を養う。	2 年次 後期
	小児看護学実習	各発達段階と健康レベルにある子どもおよび家族の健康問題を、保健・医療・福祉・教育の視点から幅広く捉え、必要な看護援助を展開する。また子どもの医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び、実践する。	2 年次 後期
	母性看護学実習	・マタニティーサイクルにある女性と新生児を受け持ち、既習の知識・技術に基づいた看護の展開を通して、母性看護の対象理解を深め、女性・子ども・家族の健康に関する課題と看護の役割について考えを深める。 * 子育てを行う母親を支援する地域の役割にふれ、対象理解を深めると共に支援者の重要性について考えを深める。	2 年次 後期
	精神看護学実習	精神疾患を抱え、日常生活や対人関係に障害をきたしている対象者を理解し、患者-看護師関係を築き、対象に合わせたその人らしさを発揮する生活を支える看護の方法と役割を学ぶ。さらに、精神科におけるチーム医療や多職種との連携について学ぶ。	3 年次 前期
	クリティカルケア看護 実習Ⅰ	急性期にある患者の身体的・心理的状況、社会的背景を理解し、対象者の尊厳を守りながら回復を促進する基礎的看護を学ぶ。入院から退院に向けて関わる多職種チームの一員としての看護の役割について学び、実践する。 主に、ER・集中治療部・放射線科実習	2 年次 後期
	クリティカルケア看護 実習Ⅱ	急性期にある患者の身体的・心理的状況、社会的背景を理解し、対象者の尊厳を守りながら回復を促進する基礎的看護を学ぶ。入院から退院に関わる多職種チームの一員としての看護の役割について学び、実践する。 主に周手術期実習	3 年次 前期
	統合看護実習Ⅰ	高知県の中山間地域で生活する人々の健康課題・医療・福祉の現状を把握し、看護職の視点で考えを深める。	3 年次 前期
統合看護実習Ⅱ	3年間の講義、演習、実習での学びを統合し自らの看護観・人間観・健康観と看護者としてのアイデンティティを育む。また、チーム医療、多職種との協働、医療安全、看護管理の視点で看護者の役割を学ぶ。	3 年次 後期	
総計			104 単位

3. 授業科目と授業概要（2年生・3年生）

※ 3年間で履修する全ての授業科目の授業概要を示します。

	履修科目	講義等の内容	時期
基礎分野 (13単位)	人間工学	保健・医療・福祉分野、特に看護における機械・機器、空間と人間との好ましい対応関係など、安全性・快適性・効率性を考慮した人間工学の基礎的な概念を理解する。	1年次前期
	論理的思考演習	科学的根拠に基づいた論理的思考力を育成し、また、論理的な表現能力を身に付け、看護実践領域で活用できる能力を養う。	1年次後期
	心理学	対象とする人間の心や行動を理解するために必要な理論を学ぶ。	1年次前期
	社会学	ものごとを社会の中で多角的に、時に批判的に見る社会学的な見方、とらえ方、社会に関する知識を身につける。看護や看護職が社会とどのようにかかわり、社会の中でどのように位置づけられるのかについての洞察や理解を深める。	1年次後期
	国語 リテラシー I	文部科学省はこれからの時代に求められる国語力として、国語力は「知的活動」「感性・情緒」「コミュニケーション能力」のなどの基盤であり個人の自己形成にかかわる重要な能力である指針を示している。これからの社会人（医療人・看護者）としての基本として重要な理解する力と表現する力、物事を考える力について学ぶ。	1年次前期
	国語 リテラシー II	国語リテラシー I（基礎）をもとに、「ことばの使い方」や「読み方」「読みやすい文章の書き方」など日本語の表現技術演習を通して深める。	1年次前期
	英会話	国際化時代に対応できるコミュニケーション手段としての総合的英語力、特に<聞く><話す>能力を身につける。	1年次前期
	看護英語	看護・医療従事者に求められる基本的な医学英語知識の習得を目指し、英語を理解するために必要な読解力・聴解力を身につける。	3年次後期
	倫理学	看護倫理とは何かを理解し、その重要性を学ぶ。保健医療福祉現場で看護師が直面する倫理的課題について考察し、看護師としてどのような倫理が求められているかを理解し、基本的姿勢と態度を養う。	1年次前期
	健康運動	健康 3 大運動の理解で自己健康管理と楽しい運動でチームワークとコミュニケーション能力を高める。	1年次前期
	人間関係・ カウンセリング	専門的援助の基盤である人間関係のとらえ方、コミュニケーションスキル、カウンセリング理論と方法について学ぶ。	1年次後期
教育学	人間の成長と教育の意義、教育の目的など教育学の理念・基本概念について学び、家庭教育、健康教育・生活指導などの実践的能力を養う。	1年次前期	
情報科学・ 演習	各自がパソコンを使って、基礎的なコンピュータリテラシーを習得し、看護現場において必要な情報通信技術に関する知識と技能を身につける。	1年次前期	

	履修科目	講義等の内容	時期
専門基礎分野 (21単位)	生化学	生体がどのような化合物で成り立っているか、またそれらの化合物がどのようにつくられ壊されて生体の恒常性が保たれているのかを理解する。 【学習内容】1. 生体を構成する物質：1) 生化学の基礎2) 糖質3) 脂質4) たんぱく質5) 核酸・水と無機質6) ホルモンと生理活性物質、2. 生体内の物質代謝：1) 代謝のあらましと酵素2) ビタミンと補酵素3) 糖質代謝4) 脂質代謝5) たんぱく質代謝6) 核酸代謝、3. 遺伝子情報とその発現：1) 遺伝子情報2) 先天性代謝異常	1年次前期
	解剖生理学Ⅰ	解剖学では、人体の正常な形態とその形成過程および機能的意義について、系統的に理解する。生理学では、解剖学で学んだ生命の構造がどのように動くのかという「機能」について学ぶ。 【学習内容】 1. 人体の構造と機能を学ぶために、2. 解剖生理学を学ぶための基礎知識、3. 栄養の消化と吸収：1) 口・咽頭・食道の構造と機能2) 腹部消化管の構造と機能3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能4) 腹膜、4. 身体の支持と運動：1) 骨格とはどのようなものか2) 骨の連結3) 骨格筋・抗重力筋4) 体幹の骨格と筋5) 上肢の骨格と筋6) 下肢の骨格と筋7) 頭頸部の骨格と筋8) 筋の収縮	1年次前期
	解剖生理学Ⅱ	【学習内容】 1. 呼吸器の構成（上気道、下気道・肺、胸膜・縦隔）、2. 肺循環、血液、3. 発音と構音、4. 内呼吸と外呼吸、5. ガス交換とガス運搬、呼吸の神経性調節、6. 血液、赤血球、白血球、7. 血沈、凝固、血液型、8. 心臓、9. 血管の構造 肺循環の血管、10. 全身の動脈 全身の静脈、11. リンパとリンパ管、12. 心臓の拍出機能、13. 心臓の収縮、14. 血液の循環の調節、15. 血圧・血流量の調節	1年次前期
	解剖生理学Ⅲ	【学習内容】 1. 腎臓の構造、2. 排泄路の構造、3. 排泄のメカニズム、尿の正常・異常、4. 体液と電解質、5. 男性生殖器と排泄路の位置関係・構造、6. 自律神経の構造、7. 内分泌による調節、8. 全身の内分泌腺と内分泌細胞、9. ホルモン分泌の調節、10. 皮膚の構造、11. 生体の防御機構、12. 体温とその調節	1年次前期
	解剖生理学Ⅳ	【学習内容】 1. 脊髄と脳、2. 脊髄神経と脳神経、3. 伝道路、4. 視覚、5. 聴覚、6. 味覚と嗅覚、7. 活動電位、8. シナプス、9. 脳脊髄液、10. 脳の高次機能、11. 女性生殖器の構造、12. 女性の生殖機能、13. 受精と胎児の発生、成長と老化	1年次後期
	病理学	人体組織における病的状態の原因・発生機序を理解する。	1年次前期
	微生物学	微生物についての基礎知識、感染と発病、感染の予防と治療について学び、生態に及ぼす影響とその対応方法を学ぶ	1年次前期
	病態生理学Ⅰ	専門的な看護を実施するための基盤として、各疾患の病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。 【学習内容】 1. 呼吸器疾患の症状と病態生理、2. 呼吸器疾患の検査と治療処置、3. 呼吸器疾患の理解、4. 循環器疾患の症状と病態生理、5. 循環器疾患の検査と治療処置、6. 循環器疾患の理解、7. 血液・造血器疾患の症状と病態生理、8. 血液・造血器疾患の検査・診断、9. 血液・造血器疾患と治療の理解	1年次前期

	履修科目	講義等の内容	時期
専門基礎分野 (21単位)	病態生理学Ⅱ	【学習内容】 1. 消化器疾患の症状と病態生理、2. 消化器疾患の検査と治療・処置、3. 消化器疾患の理解、4. 内分泌・代謝疾患の症状と病態生理、5. 内分泌・代謝疾患の検査と治療・処置、6. 内分泌・代謝疾患の理解、7. 自己免疫、8. 腎・泌尿器疾患の症状と病態生理、9. 腎・泌尿器疾患の検査と治療・処置、10. 腎・泌尿器疾患の理解	1年次後期
	病態生理学Ⅲ	【学習内容】 1. 運動器疾患の症状と病態生理、2. 運動器疾患の診断・検査と治療・処置、3. 運動器疾患の理解、4. 脳・神経疾患の症状と病態生理、5. 脳・神経疾患の検査と治療・処置、6. 脳・神経疾患の理解、7. 精神症状および状態像、8. 精神疾患の分類・診断と検査法、9. 精神疾患の治療、10. 精神疾患の理解	1年次後期
	病態生理学Ⅳ	【学習内容】 1. 女性生殖器の症状・徴候と病態生理、2. 女性生殖器も診断・検査と治療・処置、3. 女性生殖器疾患の理解、4. 眼検査と治療及び疾患の理解、5. 耳鼻・咽喉の検査と治療及び疾患の理解、6. 皮膚の検査と治療及び疾患の理解、7. 妊娠・分娩・産褥に伴う生理的变化及び正常な経過、新生児の理解	1年次後期
	臨床栄養学	栄養に関する基礎的知識を学び、病態や栄養状態に基づいた適切な栄養マネジメントについて理解を深め、栄養療法の重要性を理解する。	1年次後期
	薬理学	薬物の特性を知り、薬物作用に関する基礎的事項を理解し、薬物の作用と病態との関連性、薬物相互作用や副作用を学ぶ。また、薬物の管理について理解する。	1年次後期
	リハビリテーション概論	リハビリテーションの概念、理念を理解し、各疾患の特徴を捉え、生活機能の観点から自立支援に向けた介助技術を学ぶ。また、リハビリテーション医療にかかわる職種の役割とチームアプローチについて学ぶ。	2年次前期
	リハビリテーション演習	リハビリテーション医療の対象となる人のセルフケア（自立・自律）支援に必要な看護技術を理解する。また、リハビリテーション医療にかかわる専門職の役割と、医療チームの中での看護師の役割を理解する。	2年次後期
	医療と経済	社会構造の変化や価値観の変化により、現在の医療システムは大きく改革が進められている。医療の現状や国の施策や今後の見通しなどを理解し、医療における経済的視点を養う。	3年次前期
	医療と安全	リスクマネジメント、安全な医療を提供するための環境、人、物、情報等を調整する知識と方法を学び、医療の質について考察する。	1年次後期
	保健医療福祉総論	保健・医療・福祉・行政に関する基本的仕組みを理解するとともに、最近の施策の動向と将来の課題について学ぶ。	3年次前期
	公衆衛生学	将来の組織的保健活動に役に立つよう人々の疾病を予防すること、より良い健康水準の獲得を目指すことを目標として、医学的、社会的、疫学的、行政的視点から、健康を維持し、増進するための基礎的知識を習得する。	3年次後期
	関係法規(社会保障制度)	我が国の保健・医療・福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を理解する。また、看護職として国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するために、看護関係法令を理解する。	3年次後期

	履修科目	講義等の内容	時期
専門分野Ⅰ (15単位)	看護学概論Ⅰ	看護の全体像を理解するための基本概念である、人間・健康・環境・看護について学ぶと共に、看護の歴史的な変遷や看護の役割、機能について学習し理解する。	1 年次 前期
	看護学概論Ⅱ	看護実践の基礎となる代表的な看護理論の概念、特徴を明らかにし、看護実践における理論の活用の基礎的能力を養う。	1 年次 後期
	フィジカル アセスメント	看護実践に活かすフィジカルアセスメントの知識と技術を身につける。	1 年次 後期
	家族看護学	看護における家族の役割は大きく、家族の援助なしに患者・クライアントのケアは時として成立しない。看護専門職として、家族とその支援手法及び家族関係性を把握するなかでキーパーソンの果たす役割を認識することは看護活動を実践する上で重要であることを学ぶ。	1 年次 後期
	看護過程 演習	看護を系統的に実践するための思考過程として、対象の健康問題を解決するためのアセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案、実施、評価の一連を学ぶ。その学習過程において、看護過程は実習の基盤となる内容であるため、グループでの問題解決思考を養うとともに、課題の遂行に必要な協調性を養う。	1 年次 後期
	看護研究Ⅰ	1 年次より、研究への関心をもち、論理的思考で現象をとらえ、既存の研究論文やその他の文献を調べる必要性を理解し、3 年次の事例研究発表へとつなげるための基礎的な知識を学ぶ。	1 年次 前期
	基礎看護学 方法論Ⅰ	看護技術の概念を理解したうえで、共通する知識・技術を学ぶ。病床環境を多角的に捉えたうえで、安全・安楽を踏まえた環境調整の援助が具体的に実践できるように学習する。また、感染防止のための基本を知り、感染予防の技術を正しく実践できるように学習する。	1 年次 前期
	基礎看護学 方法論Ⅱ	苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について理解し基本的な援助技術及び創傷管理の基本援助技術を学ぶ。また、医療が提供されるあらゆる場面で起きうる医療事故について理解し、医療事故防止の方法を学ぶ。	1 年次 前期
	基礎看護学 方法論Ⅲ	清潔・活動・休息は人間の基本的欲求の充足に必要な日常生活援助であることを理解し、対象への配慮を考えながら、校内実習を通して具体的な援助方法を習得する。	1 年次 前期
	基礎看護学 方法論Ⅳ	健康な生活における食事・排泄の意義を学ぶ。また、食事摂取・排泄機能の障害が対象に及ぼす影響を理解し、校内実習を通して対象に適した援助方法を学ぶ。	1 年次 後期
	基礎看護学 方法論Ⅴ	診療に伴う援助の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される治療、検査、処置などに必要な基本的知識、援助技術の方法を習得する。	1 年次 後期
	基礎看護学 方法論演習	急性期の事例を用いて、患者の状態に応じた看護過程の展開を行う。安全・安楽・自立の看護技術の原則や根拠に基づいた援助計画を立案し、医療安全や倫理的視点を考慮した看護援助を実施するための基礎的な能力を養う。	2 年次 前期

	履修科目	講義等の内容	時期
専門分野Ⅰ (15単位)	基礎看護学 実習Ⅰ	患者の生活環境と療養生活の実際を知り、対象に合った看護援助について考えることができる。また、患者を尊重した態度について考え、患者とのコミュニケーションを図る能力を養い、看護者としての基本的能力を身につける。	1 年次 後期
	基礎看護学 実習Ⅱ	受け持ち患者への看護を通して、一連の看護過程を体験的に理解し、問題解決できる基礎的能力を養う。また、既習の看護技術を受け持ち患者に適用する方法を学ぶ。	1 年次 後期
専門分野Ⅱ (38単位)	成人看護学 概論	成人期にある対象者の特徴を発達段階に応じて、身体、心理、社会的側面で捉え、成人が抱える健康問題を広く理解する。また、成人期にある対象者やその家族に応じた看護を実践するための基盤となる主要な概念や理論を学び、成人期の対象者に応じた看護ケアの基礎的な能力を養う。	1 年次 後期
	成人看護 援助論Ⅰ	生命の危機的状況にある人々を理解するための基盤となる考え方や理論を学習する。	2 年次 前期
	成人看護 援助論Ⅱ	急性期、特に救急等クリティカルな状態にある対象者の身体的変化や心理的特徴を踏まえた効果的な看護援助の在り方を学ぶ。	2 年次 前期 後期
	成人看護 援助論Ⅲ	回復過程にある患者とその家族の特徴を理解し、再発予防を含めたリスク管理を行ないながら、活動を促進する看護の役割と方法を学ぶ。また、慢性疾患など生涯にわたり症状・生活のコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を知り、その状況に応じた看護の役割と援助方法を学ぶ。	2 年次 前期
	成人看護 援助論Ⅳ	終末期医療の現状を検討するとともに、終末期医療に関する概念を理解する。人間にとっての死、全人的苦痛（トータルペイン）、死とともに生きることについて、考え方や理論、および具体的な援助方法を学ぶ。終末期にある患者および家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、対象のニーズおよび健康レベルの低下に伴い生じる問題に対し、その人らしさを重視して質の高い生活が送れるような方法で援助する方法を学ぶ。	2 年次 前期
	老年看護学 概論	加齢の意味や加齢に関する理論、老年期の特徴、加齢のプロセスと健康などについて学び、一人の生活者としての高齢者を理解する。さらに、高齢者をとりまく保健・医療・福祉とその課題について理解し、高齢者ケアにおける看護の役割について学ぶ。	1 年次 後期
	老年看護 援助論Ⅰ	加齢と健康の関係や老人の健康障害とその特徴について理解し、健康の保持・増進及び疾病の予防に関する看護の方法を学ぶ。また、健康障害を持つ老人の生活とその老人を取り巻く家族や地域集団にとっての老人の健康の意味、家族をも含めた老人ケアにおける看護の役割について学ぶ。さらに、「年をとる」ことが、人にとってどのような意味があるのか、また、高齢者が生きてきた時代やその価値観について考える。	2 年次 前期
	老年看護 援助論Ⅱ	加齢と健康の関係や老人の健康段階に応じた看護のあり方を考え、老人の日常生活の看護援助を学ぶ。	2 年次 前期
老年看護 援助論Ⅲ	超高齢社会におけるエンド・オブ・ライフ・ケアを提供するために、必要な知識・技術を学び、多職種チームの一員として看護職が果たすべき役割や基本的態度について考える。	2 年次 前期	

	履修科目	講義等の内容	時期
専門分野Ⅱ (38単位)	小児看護学 概論	子どもが成長発達過程にあることを理解する上で基盤となる概念や理論を理解し、さまざまな健康レベルの子どもと家族の看護について学ぶ。	1 年次 後期
	小児保健	子どもを取り巻く社会の動向やライフサイクルにおける小児期の健康課題について理解し、現在・将来の小児看護の方向性について学ぶ。	2 年次 前期
	小児看護 援助論Ⅰ	病気・障害をもつ子どもとその家族に対応した QOL 向上への看護援助について学ぶ。	2 年次 前期
	小児看護 援助論Ⅱ	子ども特有の疾患の病態・症状・診断・治療と看護について学ぶ。また、既存の知識の統合を図り個別的な看護の展開を学ぶ。	2 年次 前期
	母性看護学 概論	母性看護を実践するための基盤となる、母性看護の特徴と概念について理解し女性を取り巻く社会の現状やライフステージ各期の健康と看護について学ぶ。	1 年次 後期
	母性看護 援助論Ⅰ	女性のライフステージの中で変化が激しい時期にある周産期において、母子及び家族の特性と健康問題を理解し、必要な基本的看護援助について学ぶ。	2 年次 前期
	母性看護 援助論Ⅱ	周産期の異常と健康問題を理解し個別的看護について学ぶ。特に妊娠・分娩・新生児・産褥の異常と看護援助について学ぶ。また、これから親となるための育児技術と家族関係について学ぶ。	2 年次 前期
	母性看護 援助論演習	妊娠・分娩・産褥各期および新生児期における対象の特徴を理解し、適切な看護ができる基礎能力を養う。また、対象に必要な保健指導を学ぶ。	2 年次 前期
	精神看護学 概論	精神看護学の観点から、心の健康、健康問題、発達、障がいについて広く学ぶ。個人の心と精神の機能、生活の場である家庭や職場などの集団における心の問題をとらえる。	1 年次 後期
	精神保健	心の健康（メンタルヘルス）についてはストレス多い現代社会において、さまざまな分野で学ばれ活用されている。ここでは、医療・看護・福祉の総合的視点から精神保健（福祉）について学び、課題を抱えながらも健康に生きていくことはどうしたことなのかを考える。	2 年次 前期
	精神看護 援助論Ⅰ	精神疾患の診断・検査方法・治療について理解し、その知見にもとづき患者の看護の実際と問題点について学ぶ。また、精神の健康上の問題に直面している対象とその家族への援助技術、対応方法について学ぶ。	2 年次 前期
	精神看護 援助論Ⅱ	精神の健康上の問題に直面している対象とその家族への援助技術、対応方法について学ぶ。地域生活を支えるために、看護師はどのような姿勢と視点を持つていくのかを学び、演習する。	2 年次 前期

	履修科目	講義等の内容	時期	
専門分野Ⅱ (38単位)	成人看護学 (6単位)	実習Ⅰ	急性期・周手術期にある成人患者の身体的・心理的状況や対象者の社会的背景を理解し、対象者の尊厳を守りながら回復を促進する看護過程の展開を学ぶ。急性期医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び、実践する。	3年次前期
		実習Ⅱ	成人期にある患者の特徴を踏まえ、回復期にある患者の回復過程を理解し、生活の自立を目指した看護を実践することができる。回復期・慢性期医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び、実践する。	3年次前期
		実習Ⅲ	成人期にある患者の特徴を踏まえ、慢性の経過をたどり生涯にわたり病状・生活のコントロールを必要とする患者および家族を理解し、看護を展開することができる。慢性期医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び、実践する。	2年次後期
	老年看護学 (4単位)	実習Ⅰ	高齢者を総合的・多角的に理解し、その人の生活環境に焦点をあてた医療・ケアについて考える。また、高齢者の基本的ニーズを充足するための看護及び慢性期・終末期を支えるための看護の展開ができる基礎的能力を養う。	2年次後期
		実習Ⅱ	高齢者を総合的・多角的に理解し、認知症高齢者に相応しい医療・ケアについて考え、その人らしさを大切にされた看護が展開できる基礎的能力を養う。	3年次前期
	小児看護学 (2単位)	実習	各発達段階と健康レベルにある小児および家族の健康問題を、保健・医療・福祉・教育の視点から幅広く捉え、必要な看護援助を展開する。小児の医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び、実践する。	2年次前期後期
	母性看護学 (2単位)	実習	マタニティーサイクルにある女性と新生児を受け持ち、既習の知識・技術に基づいた看護の展開を通して、母性看護の対象理解を深め、女性・子ども・家族の健康に関する課題と看護の役割について考えを深める。	2年次前期後期
	精神看護 (2単位)	実習	精神疾患を抱え、日常生活や対人関係に障害をきたしている対象者を理解し、治療的患者－看護師関係をもとに展開される精神科看護の実践を通して、看護の方法と役割を学ぶ。更に、精神科におけるチーム医療や多職種との連携について学ぶ。	2年次後期

	履修科目	講義等の内容	時期
統合分野 (14単位)	在宅看護概論	在宅看護の現状や社会の動向を知り、在宅療養者と家族が住み慣れた地域で生活できるための在宅ケアシステムと看護活動について学ぶ。また、在宅ケアシステムにおける多職種協働と看護の役割について学ぶ。	2年次前期
	在宅看護援助論Ⅰ	在宅看護を展開するために必要な信頼関係形成のための技術、日常生活援助技術、医療管理技術など、在宅において特有な看護技術に関する知識や方法を学ぶ。	2年次前期
	在宅看護援助論Ⅱ	在宅で看護を必要としている療養者および家族の潜在能力を最大限に活用し、在宅生活を継続するための看護援助方法を学ぶ。また、在宅移行支援における多職種協働と看護の役割について学ぶ。	2年次前期後期
	看護研究Ⅱ	看護研究Ⅰを基盤に、これまでの臨地実習で受け持った患者の看護を事例研究としてまとめ、看護研究発表会において発表、質疑応答などの進め方や評価を学ぶ。	3年次後期
	チーム医療	医療従事者としてチーム医療に必要な知識を習得し、医療従事者間の連携や協働について学ぶ。また、実習で体験したチーム医療の現状とチーム医療の知識を統合し、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップについて理解する。	3年次前期
	看護管理	医療チームの一員として組織的・効果的に看護を提供するための看護管理の基本概念を学び、より質の高い看護サービスを提供するための課題発見力・課題達成力・評価能力を習得する。	3年次後期
	災害看護・演習Ⅰ	災害が市民の健康や生活に及ぼす影響について学び、災害発生直後から始まる災害医療における看護職の役割、医療チームにおける多職種との連携について学ぶ。	3年次前期
	災害看護・演習Ⅱ	災害看護・演習Ⅰの学習を通して、災害時の救急処置の実際について学ぶ。	3年次後期
	看護技術評価	卒業後早期に求められる臨床判断と適切な看護援助を、医療現場に近い状況で学習をし、看護技術を総合的な評価を行う。	3年次後期
	(2単位) 在宅看護論	実習	生活の場で行われている看護活動の実際、在宅療養者と家族の生活を支えている保健医療福祉サービスの現状を知り、在宅看護の役割・機能についての理解を深める。在宅における終末期の利用者・家族への看護の役割について理解をする。関係機関・職種との連携の実際を学び、在宅における看護の責任や倫理的配慮について考え、自己洞察を深める。
(2単位) 看護の統合	実習	統合看護実習は3年間の講義、演習、実習での学びを統合し自らの看護観・人間観・健康観と看護者としてのアイデンティティを育む。また、チーム医療、多職種との協働、医療安全、看護管理の視点で看護者の役割を学ぶ。	3年次後期
総計			101 単位 (3000 時間)